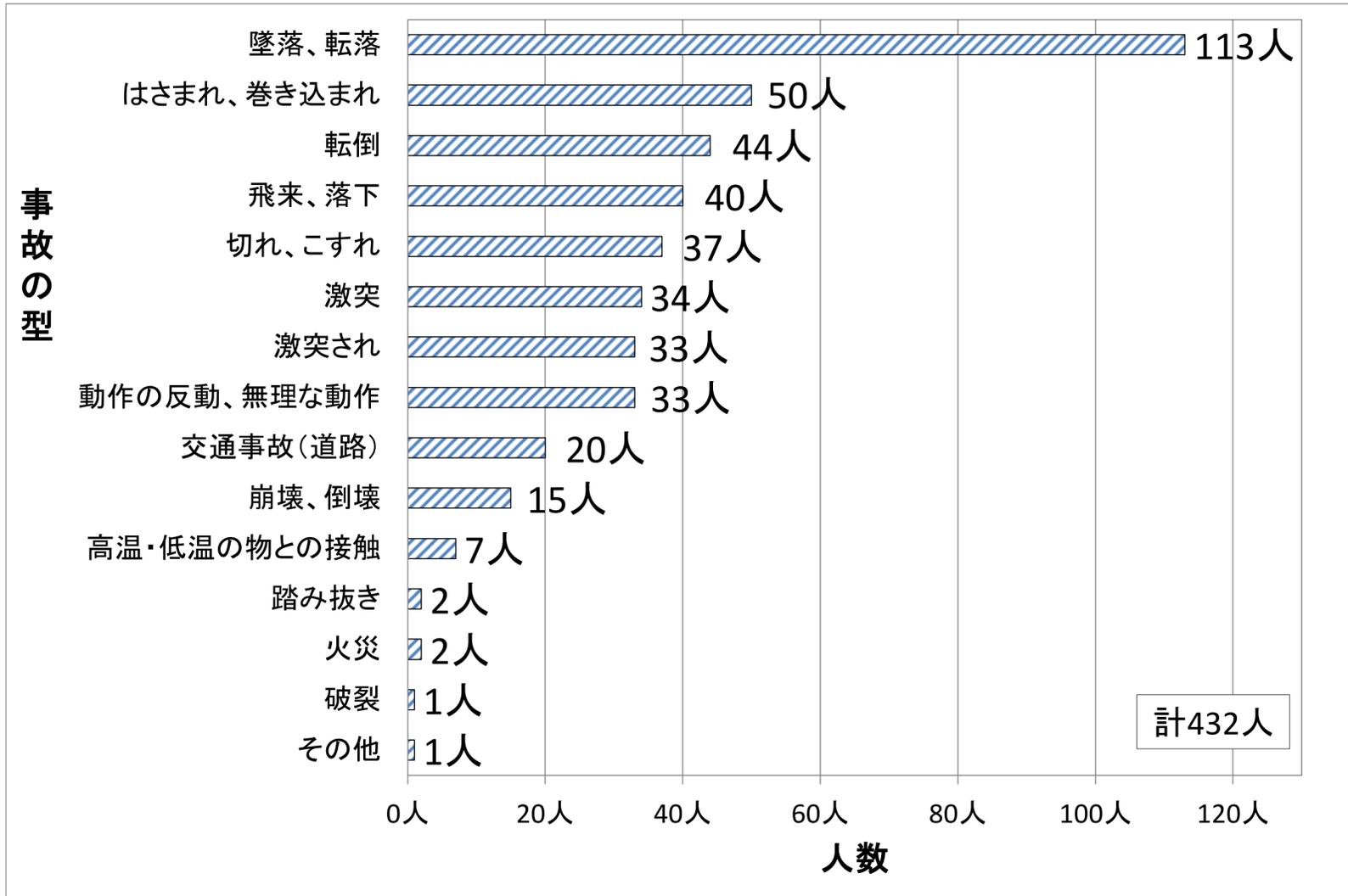


- ①平成28年の建設業の労働災害は432件と対平成27年比60件、16.1%の増加、対平成26年比30件、7.5%の増加、対平成25年比33件、7.1%の減少、対平成24年比95件、18%の減少、対平成23年比4件、0.9%の減少となっていますが、対平成22年比は161件、59%の増加と震災前の水準の1.5倍以上となっています。
- ②平成28年の月ごとの発生状況は、1月37人、2月51人、3月35人、4月31人、5月30人、6月40人、7月40人、8月36人、9月39人、10月24人、11月34人、12月35人です。
- ③平成28年は前年と比較して土木工事業と木造家屋建築工事業が大きく増加しています。
- ④平成28年の建設業の労働災害432件のうち、事故の型別で最も多いのが墜落、転落で113件(26%)、次いで、はさまれ・巻き込まれが50件(12%)、転倒が44件(10%)、飛来・落下が40件(9%)、切れ・こすれが37件(9%)の順となっています。また、被災労働者の年齢では、最も多いのが60歳代で116件(27%)、次いで30歳代が78件(18%)、40歳代が75件(17%)の順となっています。
- ⑤死亡災害は、平成28年は5件発生しています。5件のうち、4件は土木工事業の現場で、1件は鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業の事業場の構内で発生したものです。

建設業の労働災害の発生状況(平成28年1月～12月)

1. 災害の原因別

平成29年3月末現在



2. 年齢別

平成29年3月末現在

